



みどりが丘小だより

R7 最終号

令和8年 3月 26日発行
小川町立みどりが丘小学校

ありがとうございました

校長 船田真由美

春の光が校庭をやわらかく包み込む季節となりました。保護者・地域の皆様のご支援とご協力のもと、子供たちはそれぞれの学年の教育課程を修了し、6年生は新たなステージへと歩み出します。本年度も本校の教育活動を支えていただき、心より感謝申し上げます。

突然ですが、令和7年度を各学年の学年だよりの名前になぞらえて振り返ってみたいと思います。

1年生は毎日「おひさま」のような笑顔とやる気いっぱい、初めての学校生活に一生懸命に取り組みました。**2年生**は自分「らしく」伸び伸びと力を発揮しながら、友達と関わり合い成長を重ねました。**3年生**は「サンシャイン」のような明るい光を放ち、新しい学習へ意欲的に挑戦しながら、自分たちの世界を力強く広げました。**4年生**は心を合わせて「ハーモニー」を奏できるように、互いのよさを認め合いながら歩きました。**5年生**は「ホロイムア」前向きに、一步一步着実に進み、高学年としての自覚を育みました。**6年生**は学校に大きな「インパクト」を与え、最高学年として力強くみどりが丘小をリードしました。**わかば学級**にはいつも「ありがとう」の言葉があふれ、支え合いながら温かな一年を過ごしました。

こうして振り返ると、「おひさま」がやわらかく光を放ち、その光を受けながら一人一人が自分「らしく」伸び、やがて「サンシャイン」のようにあたたかな日差しが学校いっばいに広がりました。心を重ねて「ハーモニー」を奏で、「ホロイムア」(前向き)に歩みを進め、確かな「インパクト」を残した一年。そして最後に残ったのは「ありがとう」の言葉でした。

このすべてが重なり合って、令和7年度のみどりが丘小学校ができあがりました。

私は毎日毎日、み小の子供たちから元気と勇気、そして、パワーをもらっていました。み小の素敵な子供たちに感謝の気持ちでいっぱいです。もうこれしかありません。ありがとうございました。

さて、令和8年度もみどりが丘小みんな、よいスタートを切るために、12日間の春休みが楽しく、充実したものになるよう、引き続きご家庭での見守りをお願いいたします。

令和8年4月8日(水)。希望と期待で胸を膨らませ、「おはようございます」と元気に登校してくる子供たちに会えることを、教職員一同楽しみに待っています。

一年間、お世話になりました。ありがとうございました。

～道～

進級・進学するみなさんへ



学校まで片道2km(往復4km)の福島さんは、6年間(1年の授業日数200日)で直線距離にして「4,800km」歩いたこととなります。

北海道から沖縄までの直線距離は約1,800km。

つまり福島さんは6年間で、北海道と沖縄の間をおよそ2往復半以上歩いたことになるのです。

こうして考えると毎日歩いた4kmは決して小さなものではありません。わずか60分ほどの道のりも、6年間積み重ねることで、日本を縦断し、さらに戻ってくるほどの距離になるのです。

小さな積み重ねが、やがて大きな成果へとつながります。勉強も、夢に向かう道のりも同じです。一度に大きな変化を求めるのではなく、一步一步を大切にすること。たとえ目に見える成果がすぐに現れなくても、確実に前へと進んでいます。

～「僕の前に道はない。僕の後ろに道はできる。」(高村光太郎「道程」)～

みなさんが歩いたその一步一步が、これからの未来への道をつくっていくのです。